

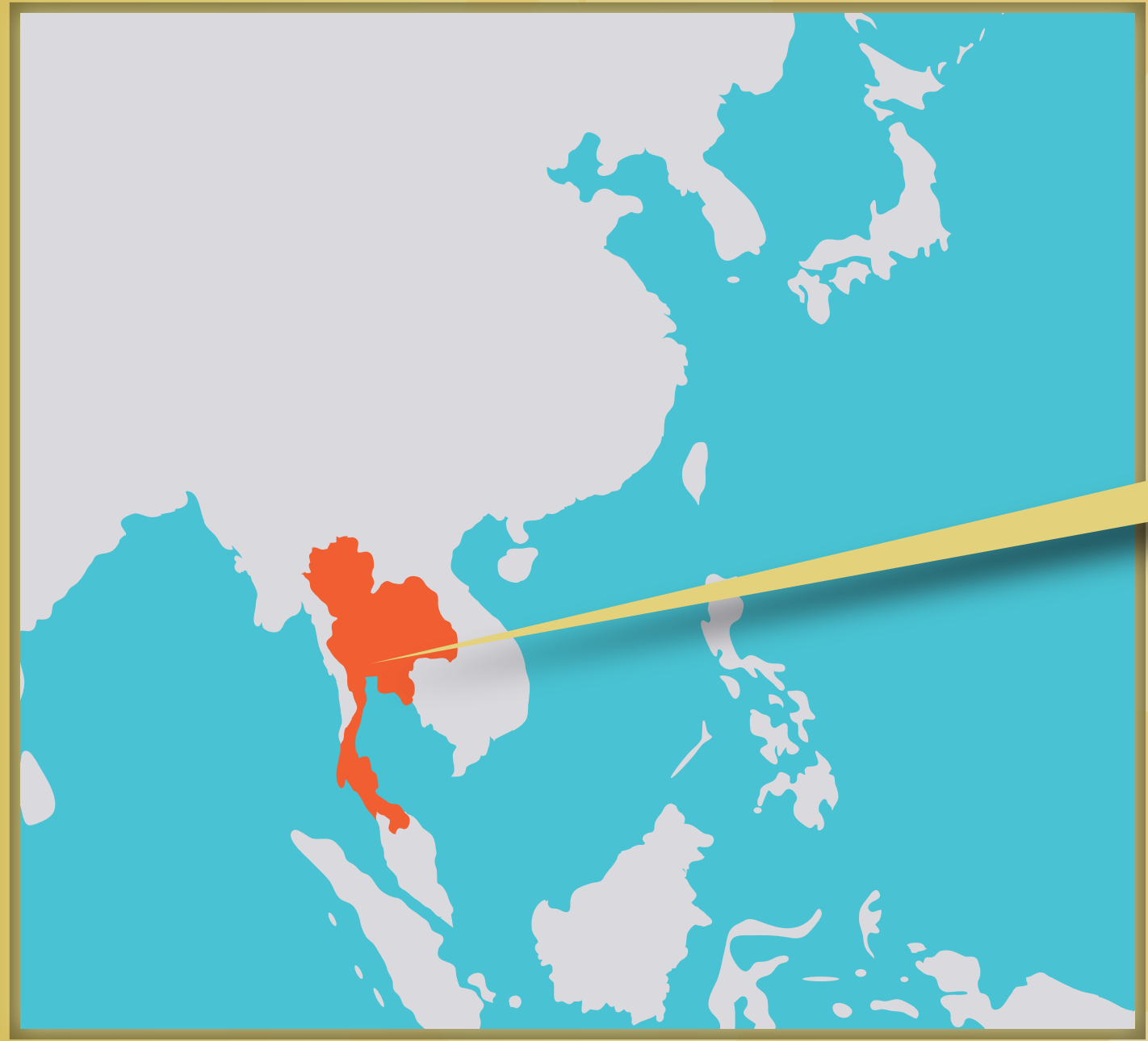
| | |
|-------------|---|
| Title | ”史料”というフィールドへ |
| Author(s) | 大野, 美紀子; 森脇, 優紀; 鄭, 美景 |
| Citation | 京都大学アカデミックデイ2018：研究者と立ち話（ポスター/展示）(2018) |
| Issue Date | 2018-09-22 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/234921 |
| Right | |
| Type | Presentation |
| Textversion | author |

文献資料（モノ）が拓く地域（フィールド）研究の可能性 東南アジア地域文献の資料論的研究

日本・中国・西洋古文書学、仏教学・道教学、東アジア史、東南アジア地域研究研究者、製紙技術、修復技術専門家が共同で学際的研究を進めています。

在泰京越南寺院景福寺旧蔵漢喃本とは？

資料の由来

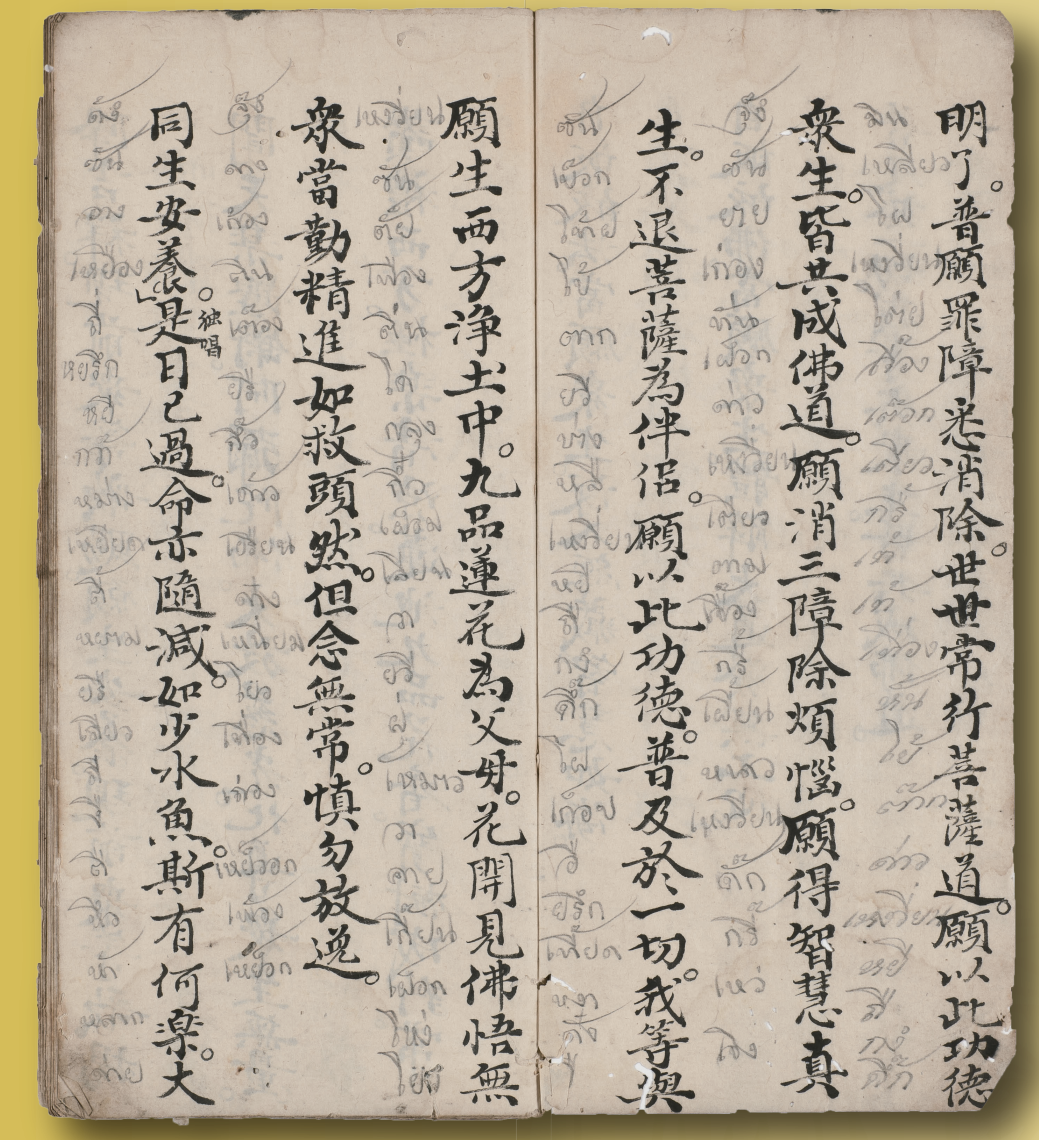


勅賜鎮國景福寺
Chùa Cảnh Phước
Wat Samananam Borihan

タイ・バンコクの通称ベトナム寺で発見され、東南アジア地域研究研究所に招来。

資料の内容

仏経典を主に、道教や明清期の民間宗教の経典を含む。



漢喃本とは？

ベトナム人の漢字や字喃著作を漢喃本と呼ぶ。
字喃は漢字を使ってベトナム語を表記した文字で、日本語のカナに相当。

モノ（形態・素材）から調べる

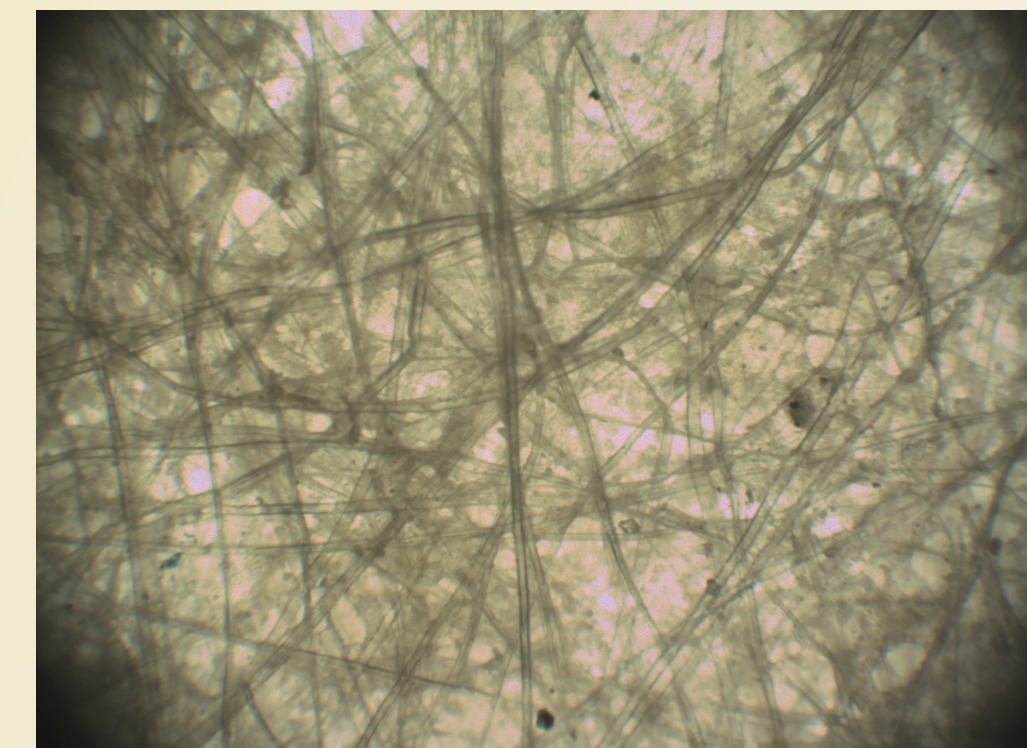
料紙調査の手法を使用

① 外形・表面観察、② 形状測定、③ 光学観察・測定（非破壊観察）

この方法は、「文書料紙について、目で見える、触るなど、調査者の感覚機能により観察し、法量、重量、厚みなど料紙の物理量を測った上で、顕微鏡やカメラなどの各種光学機器を利用した観察・測定データを加味して、定量的に分析する手法」。

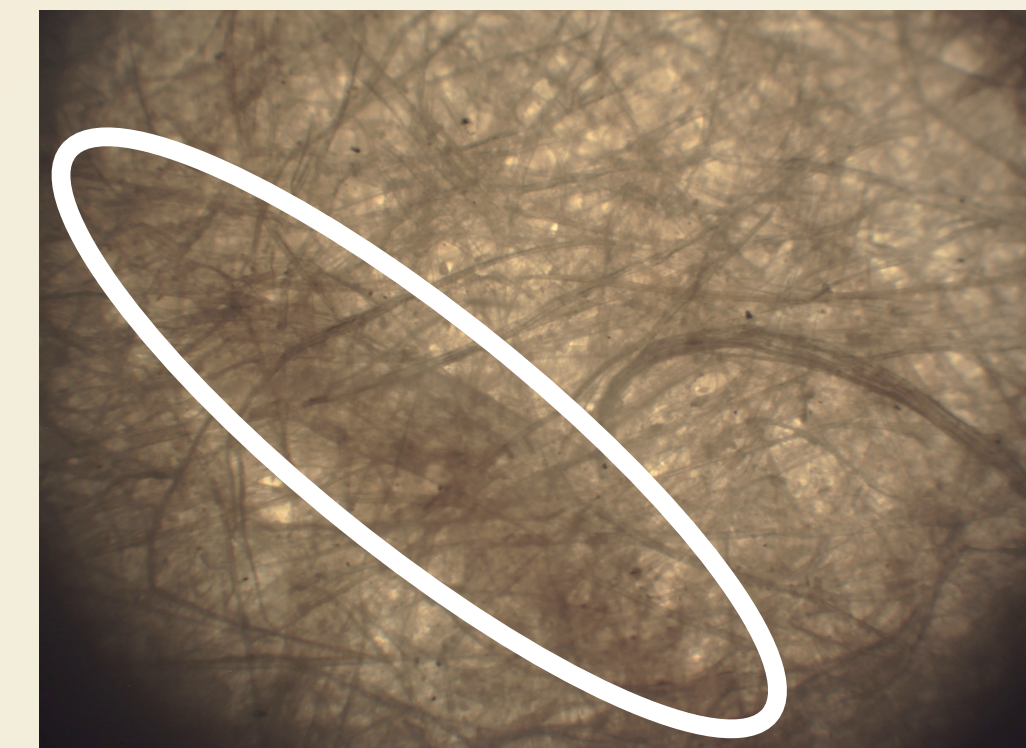
調査者の感覚からの主観的データに偏らず、物理量や光学観察・測定の記録という客観的データを相互に突き合わせて定量化しようとしている点が特徴。

繊維の見える方



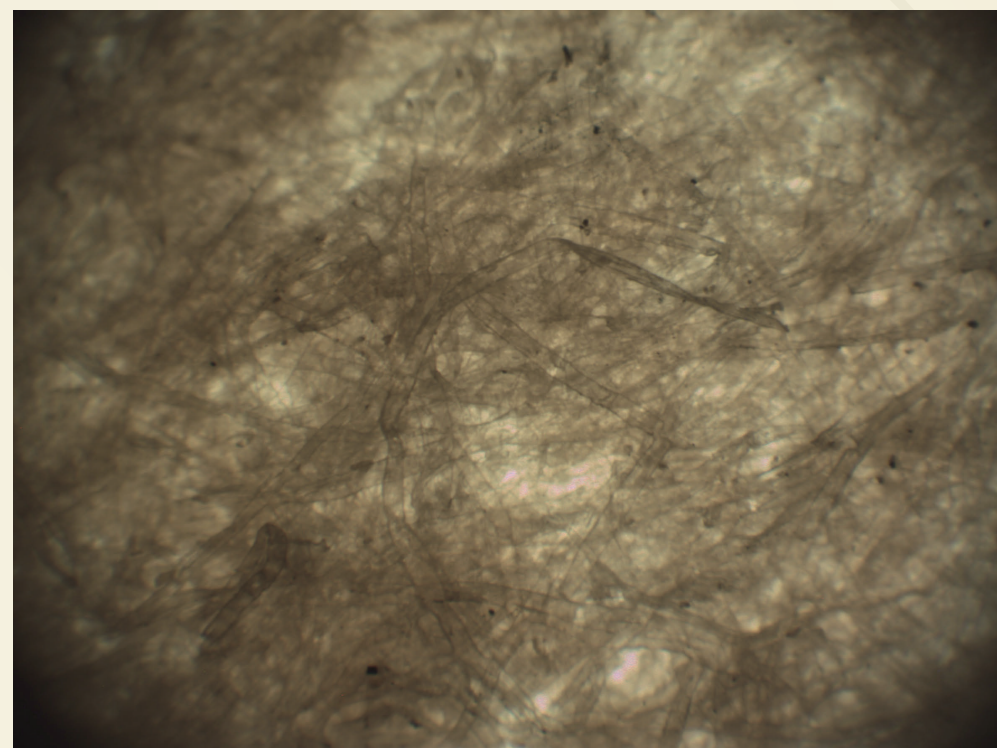
● 楮繊維（米粉入）

長く幅広で薄膜に包まれており、線条痕や結節が所々に観察され、**楮繊維**の特徴を備えている。



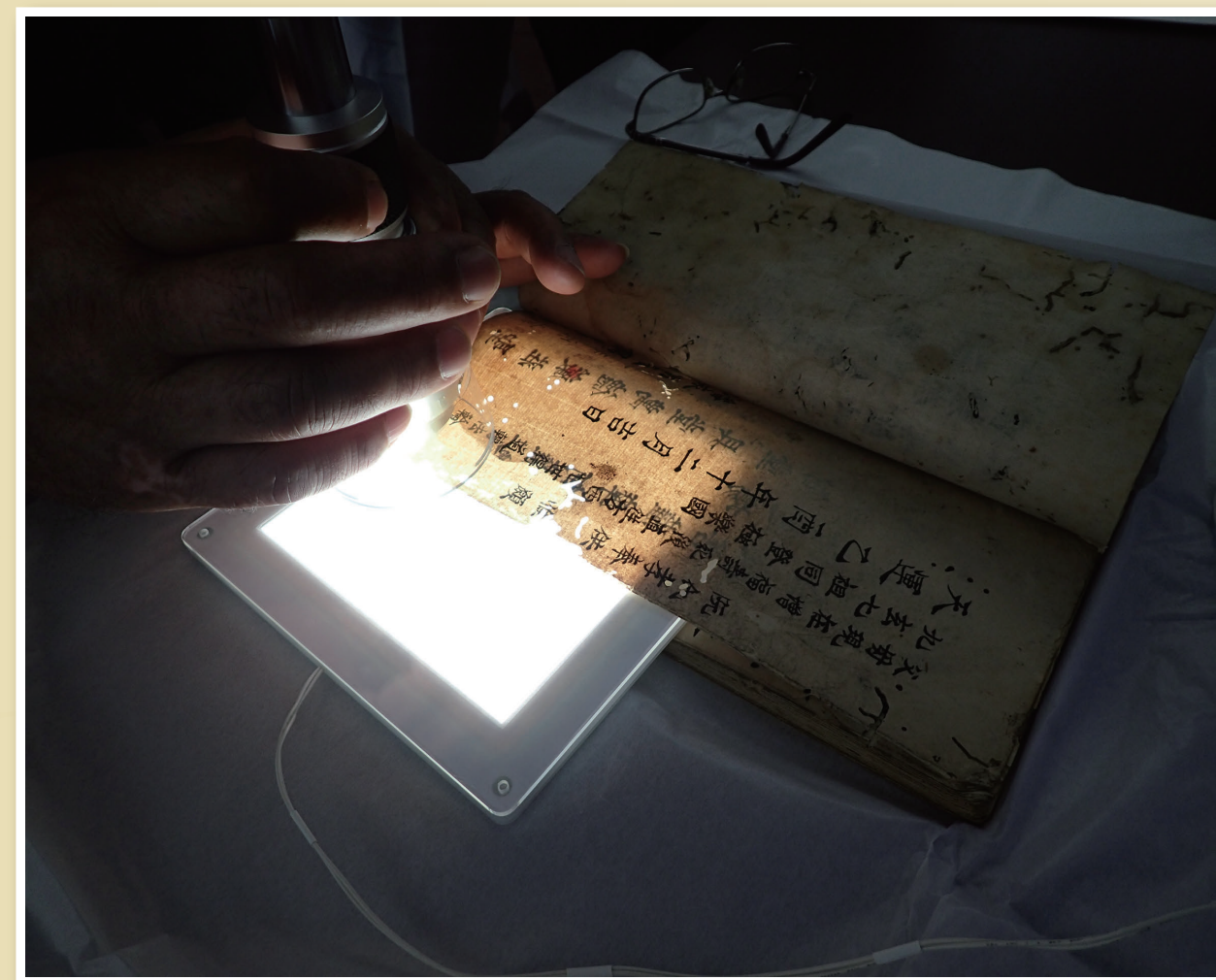
● 竹繊維

大きな孔紋導管（白丸で囲んだ部分）が観察され、**竹繊維**であることがわかる。



● パルプ繊維

幅の広いリボン状の繊維や、裁断された繊維がみられる。劣化状態なども勘案すると**パルプ繊維**であろう。



●顕微鏡による繊維観察

オリジナルだからできる研究

テキストから調べる

翻刻

翻刻（手書き文字を活字に起こしてパソコンに入力）によって、デジタル空間でアジア広域の文献比較。

仏教学・道教学から

デジタル版大蔵経と比較しながら、資料群の断片を経典へと再構成する。
経典の文言・挿絵を日・中・韓国の漢訳仏教典と比較する。

言語学から

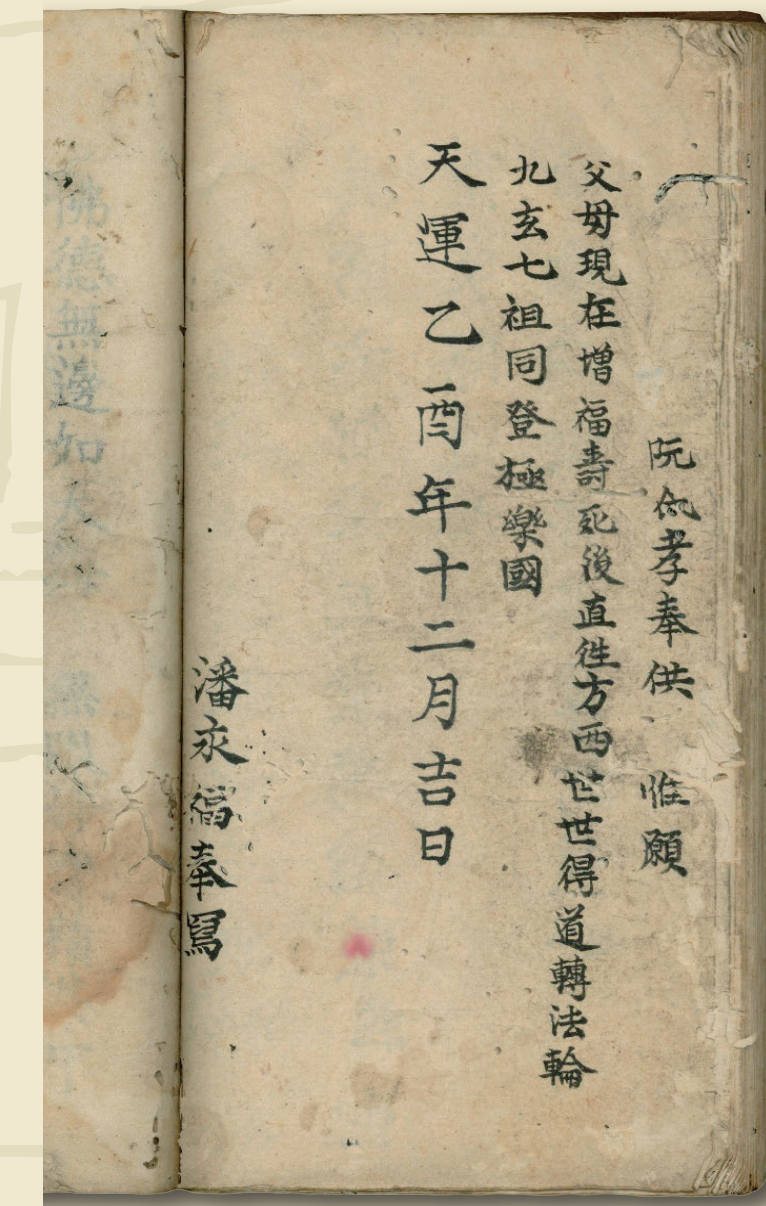
経典に付された字喃やタイ文字について、地域や時代を比定する。



考察 ー近現代アジアにおけるモノ・ヒトの交流とそこから生まれる時代思潮

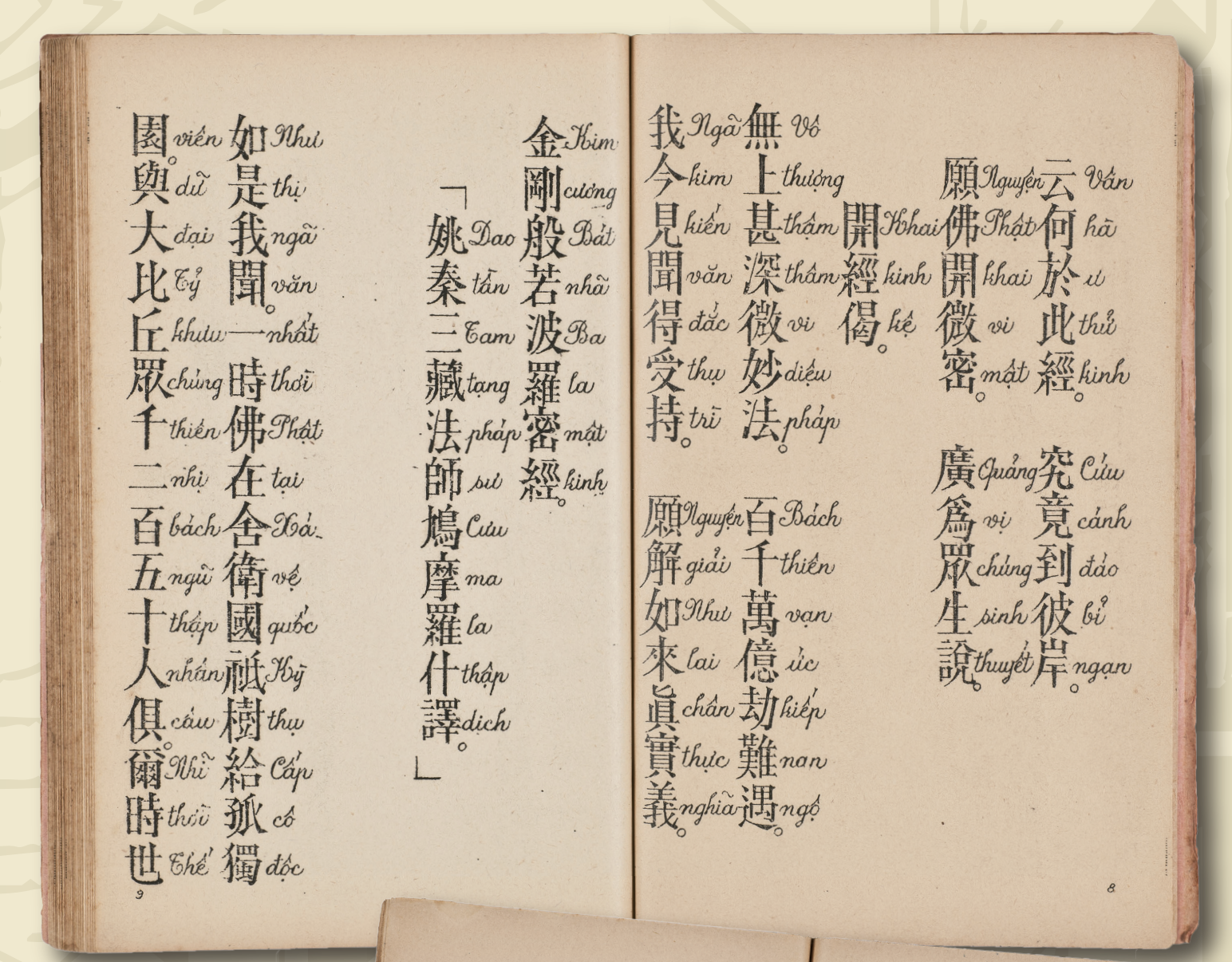
モノが語る

19世紀後半から近代製紙業がスタートする。機械漉か手漉か、洋紙かアジアの紙か、インクが墨か、綴じ方や装幀は欧米式かアジア式か、サイズは？どこで出版・書写されてバンコクにもたらされたか？



テキストが語る

テーラヴァーダ仏教圏で発見され、字喃やタイ文字のヨミを付与した漢訳仏教典がある＝タイ在住華人、ベトナム人に加えてタイ人も信仰していた→2大仏教＝テーラヴァーダ仏教と大乘仏教ーの交流。

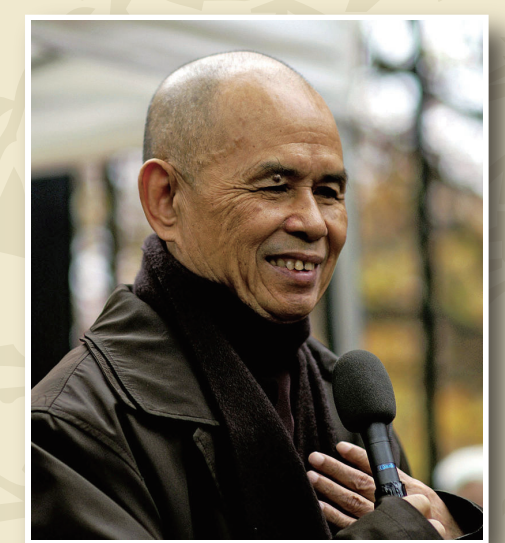


地域（フィールド）における景福寺とは？

禅宗寺院名として日・中・韓国にも見られるが、資料群の構成から見ると、中・韓国系に類似し阿弥陀信仰や民間信仰を抱合。寺院名に、ベトナムの最後の王朝阮朝の皇族の系字「福」を冠し、「景福＝大きな福」ベトナムの繁栄を願う意味を込めている。

アジア圏における国を超えた仏教交流と時代思潮

近代中国・韓国の仏教は、日本仏教との交流の中で仏教復興運動や、独立運動、そして民衆運動へと発展し、仏教においては主に禅僧たちが担ってきた。ベトナムの禅僧もまた時代思潮へ合流していったのでは？



●行動する禅僧ティク・ナット・ハン
(photo by Due)

引用・参考文献：

桜井由躬雄（1979）「在泰京越南寺院景福寺所蔵漢籍字喃本目録」『東南アジアー歴史と文化ー』8, pp.73-117

天野真志・富善一敏・小島浩之（2017）「近世商家文書の料紙分析試論：武蔵国江戸日本橋白木屋大村家文書を例として」『東京大学経済学部資料室年報』7, pp.1-15

小島浩之・矢野正隆（2018）「漢字・字喃經典料紙調査概要：東南アジア地域文献の史料論的研究序説」『東京大学経済学部資料室年報』8, pp.69-75

アジア文献学・資料保存論：小島浩之（東京大学）基盤 B 「『図書館資料保存論』に関する基礎的研究」

日本古文書学：本多俊彦（金沢学院大学）サントリー文化財団研究助成「和紙技術・文化論の再構築をめざして：多言語による記録と伝世資料の比較検討による学際的研究」

ベトナム史：大野美紀子（京都大学）基盤 B 「逐次刊行物データベースを利用したインドシナ3国出版思潮の研究」

西洋古文書学：森脇 優紀（東京大学）挑戦的萌芽研究「日本の洋式製本の技術伝播に関する歴史的研究：洋装本資料保存のための基盤整備」

音韻学：清水政明（大阪大学）IPCR 「東南アジア地域文献の資料論的研究：ハンノム文献を中心として」
仏教学：鄭美景（花園大学大学院文学研究科）IPCR 「近代ベトナムにおける禅宗寺院の経典について」